

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[50]歳、勤続年数[27]年、現場経験年数[22]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [初めて]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[30]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[9]年、階級[消防副士長]、同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	2階ベランダに架梯した三連梯子の確保を下命。	
経過2	B	Aの下命により当該梯子を地上にて確保。	
経過3	A	面体の着装は特に指示せず。	
経過4	A	他隊が2階ベランダ側の窓を開放し進入。	
経過5	B	確保を継続中、硫化水素らしき臭気をかんじる。	
経過6	A	梯子架梯位置より約10m離れていたため、当該臭気は感ぜず。	
経過7	B	身の危険を感じ梯上に他隊員がいないことを確認し、その場を離れる。	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

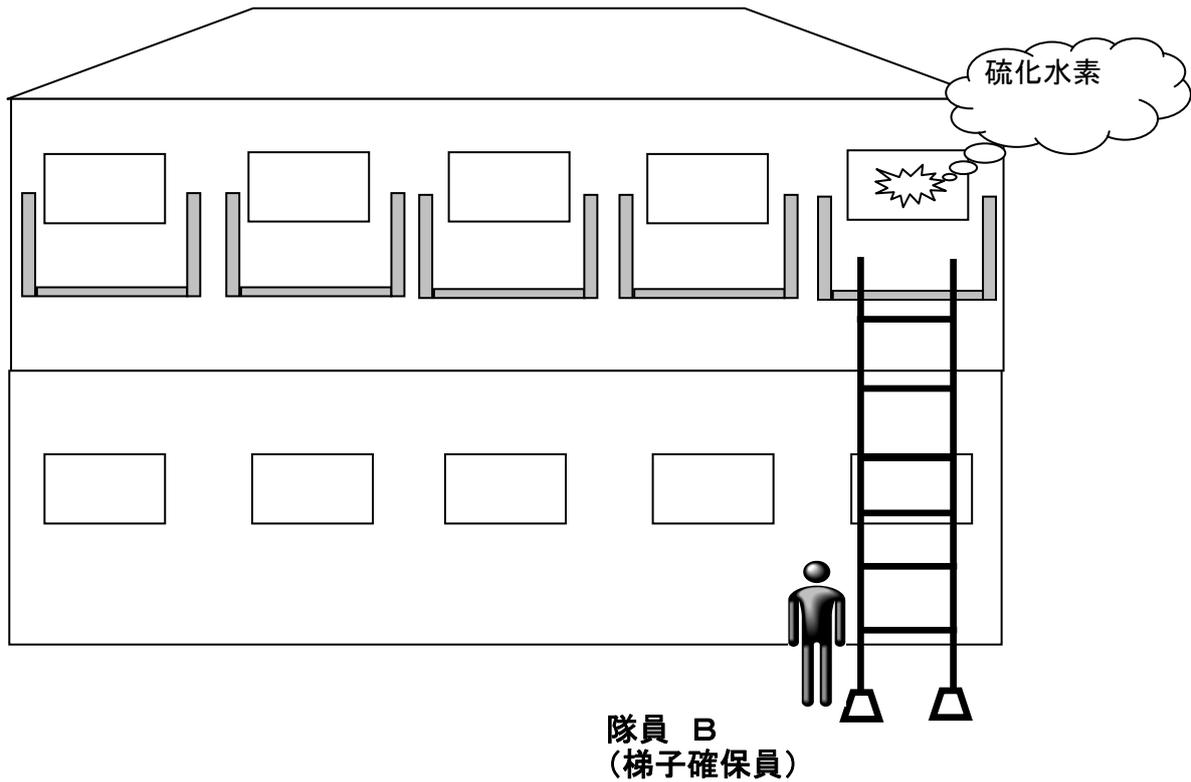
○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

木造2階建てアパート

N
4



 <p>三連梯子</p>	 <p>他隊により破壊された跡</p>
 <p>バルコニー</p>	 <p>人物</p>
 <p>窓</p>	

○ヒヤリハット事例：硫化水素発生に伴う救助作業時の安全管理の徹底
 (同様の体験は、初めて体験した。)

(08H0218)

・発生日時：平成20年5月4日 午後3時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考	
		車長／消防司令補 ・年齢 50 歳 ・勤続 27 年 ・現場 22 年 ・同様の活動: 初めて	隊員／消防副士長 ・年齢 30 歳 ・勤続 9 年 ・現場 9 年 ・同様の活動: 初めて	他隊		
	屋外：アパート 2 階ベランダ下	<pre> graph TD A[2階ベランダに架梯した三連梯子の確保を下命 (面体の着装は特に指示せず)] --> B[下命により当該梯子を地上にて確保] A --> C[梯子架梯位置より約10m離れていたため、当該臭気は感じず。] B --> D[2階ベランダ側の窓を開放し進入。] D --> E[確保を継続中、硫化水素らしき臭気を感じる] E --> F[身の危険を感じ梯子上に他隊員がいないことを確認し、その場を離れる。] </pre>				

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？
 危険情報を把握、予見できた。
 集中力、注意力があった。
 避難・退避がうまくいった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
 (心理・体調について)
 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
 ・活動に対する経験が不足していた。
 (指揮・管理について)
 ・隊員が不足していた。